

「消化器内視鏡用語集」

日本消化器内視鏡学会用語委員会 編集

東北大学助教授

浅 木 茂

「消化器内視鏡用語集」が日本消化器内視鏡学会用語委員会編集され医学書院より出版された。本書の内容は消化器内視鏡に関係するすべての領域に及ぶ用語について、8年余にわたる用語委員会の討議を基に作成されたものである。内視鏡用語として必要不可欠なもののみを取り上げ、内視鏡関係の和文および英文の論文作成に役立つ用語集となることを狙って編集されたものである。したがって、日本語を基本とし、これに対応する英語が収録され、ドイツ語やラテン語は慣用されているものが適宜掲載されている。特に、世界内視鏡学会 (OMED) の用語委員会の用語集を参照し基本線での一致を図っていることや、混乱のある用語については好ましい使い方を示し、註釈をつけ説明を補足していることも特徴の1つになっている。

本書の構成をみると、以下の5つのパートより成っている。すなわ

ち、第1部では、消化器内視鏡に関する解剖学的用語が口腔から食道、肛門に到るまでの全消化管と肝、胆道、膵、更に腹腔と消化器全般について取り上げられており、重要な部位には図が用いられて解説されているので理解しやすい。

第2部では内視鏡所見に関する基本用語が総論と各論に分けて取り上げられており、肉眼病型分類のシェーマとその用語が掲載されているのも便利である。この項目の用語に対応し重要なものが第4部のカラー写真として収録されているので、一層理解しやすく普遍性があり説得力のあるものになっている。

第3部では内視鏡手技に関する基本用語が取り上げられている。

最後の第5部では和文と欧文の索引に加えて OMED による消化器内視鏡用語のコードナンバーが掲載されている。

編集委員会は、本書の用語は最終

的なものではないとしているものの、学会発表や論文を作成する際には本書に掲載されている用語を用いるのが望ましいと思われる。このように統一された用語を使用することが、洋の内外に通用する論文であるための体裁上の必要条件の1つになっていることからもうなずける。

本書は消化器内視鏡の勉強にこれから取り組まれる方にとっても、またこれまで消化器内視鏡による診療、研究に従事されてきた方にとっても、日頃用いられている内視鏡用語を再チェックするのに大いに役立つと考えられる。特に、新しい検査や診断の手法や治療法などを開発した場合の命名の際に、内外に通じるオーソドックスな適切な用語を決めるのに参考になると思われる。

用語の統一と priority の尊重という接点を踏まえ今後も検討が加えられ、より充実したものになってゆくとともに、わが国の消化器内視鏡学の進歩にますます寄与することになると期待される。このような観点から、会員の1人として用語委員会の多年の御努力に敬意を表するとともに、本書を更に育成し充実させなければならぬ責任を痛感する。ともあれ、本書は消化器内視鏡に携わる者にとって必携の一書である。

A 5 判 176 頁 図 7 原色図 51
1989 定価 3,399 円(税込) 〒 300

—医学書院 刊